※令和４年度以降入学生用

学校番号	１０００１

令和５年度　社会科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校 新倫理 新訂版（ 清水書院）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・人間としての在り方生き方について、ギリシャ思想、キリスト教、仏教、儒教などの代表的な先哲の思想や芸術家とその作品を手掛かりとして広い視野に立って考える。
・現代の諸事象について、倫理的視点から主体的に課題を見いだし、探究する。

２　学習の到達目標

(1)人間尊重の精神生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。
(2)人格形成に努める実践的意欲を高める。
(3) 他者と共に生きる主体として自己の確立を促し、良識ある公民として必要な態度を育てる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付ける。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

※令和４年度以降入学生用

前期	第1編　青年期と人間としてのあり方・生き方	第1章　青年期の意義と自己形成1　人間性の特質 第2章　青年期の課題と自己実現 1　青年期の意義 2　自己の理解に向けて 3　豊かな自己実現のために	a:　青年期を現在の自分のこととして、関心をもち、その課題に取り組もうとする意欲をもっている。自己自身の生き方や在り方について、自覚的に見つめて考えようとする関心や意欲をもっている。 b:設定された主題について、青年期の課題を現在の自分のこととして考え、その解決に向けて模索している。自己自身の生き方や在り方について、パーソナリティ、アイデンティティ、適応といった一般理論から、個々人の現実の次元でそれがどうなっているか判断することができる。 c:設定された主題について、必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:設定された主題について、自己自身の生き方や在り方について、アイデンティティやモラトリアムといった言葉を適切に使うことができ、青年期の発達課題をまとめることができる。	定期考査	定期考査	課題提出 授業態度 ワークシート 発問に対する応答

※令和４年度以降入学生用

	第2編　人間としての自覚と生き方	第1章　人生における哲学 1　神話から哲学へ 2　自然哲学の誕生とソフィスト 3　真の知への道　ソクラテス 4　理想主義的なあり方　プラトン 5　現実主義的なあり方　アリストテレス 6　幸福をめぐる問い　ヘレニズムの思想 第2章　人生における宗教 第1節　キリスト教　愛の宗教 1　ユダヤ教 2　イエスの思想 3　世界宗教への展開 第2節　イスラーム　啓示と戒律の宗教 第3節　仏教　悟りと慈悲の宗教 1　バラモン教 2　仏陀の思想 3　仏教のその後の展開 第3章　人生の知恵 1　孔子と儒家の思想 2　儒教の展開 3　道家の思想 第4章　人生における芸術 芸術と芸術家 共同作品としての芸術 芸術と社会 日常生活と芸術	a:　先哲が考え実践したことが時間や空間を越えた普遍的な意義をもつものとして、或いは自己自身の生き方や在り方に深く関わるものとして関心をもって学ぼうとする意欲・態度をもっている。 b:　設定された主題について、思想家の生涯と思想を通して、その意味について考え、主体的かつ客観的に判断することができる。 c:設定された主題について、必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:設定された主題について、概念を使って考え、文章を書くことができる。	定期考査	定期考査	課題提出 授業態度 ワークシート 発問に対する応答

※令和４年度以降入学生用

後期	第3編 現代社会と倫理	第1章　現代の倫理的課題 近代とは／合理化と近代科学／ 合理的な考え方と社会の進歩／ 近代社会がもたらしたもの／ 近代社会の限界 第2章　現代に生きる人間の倫理 第1節　人間の尊厳 1　自己肯定の精神 2　宗教観の転換 3　人間の偉大と限界 第2節　自然や科学技術と人間とのかかわり 1　自然への目と科学的なものの見方 2　事実と経験の尊重 3　理性の光 第3節　民主社会における人間のあり方 1　民主社会の原理 2　人権思想の展開 第4節　自己実現と幸福 1　人格の尊重と自由／カントの批判哲学／自律としての自由／善意志と目的の国 2　自己実現と自由／絶対精神の目的と自由／弁証法／人倫と自由の実現 3　幸福と功利／最大多数の最大幸福／不満足なソクラテス 4　創造的知性と幸福／プラグマティズム 第5節　個人と社会とのかかわり 1　人間性の回復を求めて　社会主義 2　人間存在の地平　実存主義 3　他者の尊重 4　社会参加と他者への奉仕 第6節　現代における理性の問題 1　生命への畏敬 2　理性主義の見なおし 3　科学観の転換	a:現代の倫理課題について、政治や経済、社会、文化的状況を踏まえて関心をもち、考えようとしている。 b: 設定された主題について、現代の私たちにも深くかかわる思考であることを認識し、その現代的な意味について適切に判断することができる。 c: 設定された主題について、必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 設定された主題について、基本的な諸概念について正しく認識し、文章にまとめることができる。	定期考査	定期考査	課題提出 授業態度 ワークシート 発問に対する応答

※令和４年度以降入学生用

	第4編　国際社会に生きる日本人の自覚	第1章　日本の風土と外来思想の受容 第1節　日本の風土と伝統 1　日本の風土と人々の生活 2　古代の人々の考え方 第2節　仏教の伝来と隆盛 1　仏教の移入―古代仏教の思想 2　仏教の土着化―鎌倉仏教の思想 第3節　儒教の日本化 1　儒教の伝来と朱子学 2　陽明学 3　古学 第4節　日本文化と国学 1　古典美の再発見 2　国学 第5節　近世庶民の思想 1　都市庶民の思想 2　農民の思想 第6節　西洋近代思想の受容 1　西洋文明との接触 2　啓蒙思想と民権論 3　キリスト教の受容 4　国家主義の高まりと社会主義 5　近代的自我の成立 6　近代日本哲学の成立 7　近代日本の思想傾向への反省 第2章　現代の日本と日本人としての自覚 新たな価値観の模索 現代日本と私たちの課題 主体性の確立	a:　日本の風土や日本人の自然観・宗教観・倫理観について、それが長い歴史の中で培われた伝統的なものであり、現在の自分の生き方や在り方にもかかわるものとして関心をもって考えようとする意欲態度をもっている。 b:　設定された主題について、その意義について正しく判断する力をもっている。 c:設定された主題について、必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:設定された主題について、その基本的概念を正しく理解している。	定期考査	定期考査	課題提出 授業態度 ワークシート 発問に対する応答

※令和４年度以降入学生用

	第5編　現代の諸課題と倫理	第5編　現代の諸課題と倫理	a:現代社会が抱える諸問題と倫理について、研究テーマを設定し、調査活動や研究発表を行うことに関心をもち探究する意欲と態度をもっている。 b: 設定された主題について、広い視野に立って適切な判断を行うことができる。 c:設定された主題について、必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:設定された主題について、適切な判断や行動のための実践的な認識をもっている。	定期考査	定期考査	課題提出 授業態度 ワークシート 発問に対する応答

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度